



農の技術 ウガンダから視察

9/26 ウガンダ共和国から農業機械研修

アフリカ東部のウガンダ共和国から市内を視察に訪れた皆さんが市長を表敬訪問しました。米収穫後の品質保持技術を学ぶことが目的で、収穫後に入る石などを取り除く「石抜き機」などを製造する細川製作所(豊科)で研修を受けたほか、農産物加工の方法を学ぶため、あかしな農産物加工広場「えべや」などを訪れました。同国で農業の担い手でもある女性の地位向上に取り組むアグネス・アティム・アピアさん(写真中央)は「良い品質の米を生産する方法を学べることはとても喜ばしい」と話しました。



南農生が“まるしえ”を開催

9/20 信州安曇野 南農まるしえ

市と連携協定を結ぶ南安曇農業高等学校の「信州安曇野 南農まるしえ」が市役所東側ロビーで開かれました。当初は東京都内で開催予定でしたが、台風の影響で中止となり、市役所での開催となりました。当日は生徒16人が参加。生徒たちが育てた果物や花、企業と協力して開発した加工品などを販売しました。事前の研修会で商品のブランド化について学んだ生徒たちは販売方法や展示方法を工夫し、商品の魅力を伝えながら、元気に接客していました。

勇壮な御船 各地で曳航^{えいこう}

9/24、27 市内で秋祭り

実りの秋を迎えた市内では各所で秋祭りが行われました。

豊科南穂高の重柳八幡宮では9月24日、高さ約5[㍎]、長さ約9[㍎]の船が地区内を練り歩きました。船には着物と袴姿の子どもたちが乗り込み、太鼓に合わせて笛の音色を響かせました。境内では波に揺られる船を表現し、前後に大きく揺らす「煽^{あお}り」が行われました。

また、穂高神社では9月26日と27日の両日、伝統行事「御船祭り」が行われました。27日の本祭りでは、等々力町区、穂高町区と穂高区がそれぞれ制作した「子ども船」3艘と、高さ約6[㍎]、長さ12[㍎]の巨大な「大人船」2艘が神楽殿の周りを巡りました。祭りの最大の見せ場である2艘の大人船のぶつけ合いでは、子孫繁栄などを願い、御船が勢いよく大きな音を立ててぶつかり合う度に大きな歓声と拍手が沸き起こっていました。



写真上：穂高神社、写真左下・右下：重柳八幡宮

秋晴れの下 40頭が出走

9/24 安曇野観光草競馬大会

県内外から競走馬などが集まり行われる安曇野観光草競馬大会が、秋晴れの清々しい空気の中で催され、約3,000人がレース観戦に訪れました。

開会式で名誉大会長の宮澤市長は「競走馬やポニーを間近に楽しめるほか、特産品の販売など、安曇野の実りを楽しんでほしい」とあいさつしました。

この日は競走馬や農耕馬、ポニーなど40頭が出走。ポニーのレースでは、思うように走らず立ち止まってしまう場面もあり、観客からは温かい声援が送られていました。また、目玉である競走馬のレースでは、大迫力で駆け抜ける白熱したレース展開が繰り広げられました。

このほかレースの合間には、ポニーの乗馬体験が行われ、馬の背に揺られながら楽しむ子どもたちの笑顔があふれていました。



新キャラ「わさっコ」誕生！

9/20 わさびコロッケ5代目キャラクター決まる

学校給食で提供されている「わさびコロッケ」の5代目となるキャラクターが決まりました。制作したのは、豊科東小学校3年の関森士恩君。作品は市内小中学生から寄せられた1,958点の中から選ばれました。表彰式で関森君は「わさびコロッケは色々な味がして好き。イラストは友達にも喜んでもらった」と話しました。わさびコロッケは、地元の食材に興味を持ってもらおうと、安曇野産のワサビの茎、ジャガイモ、豚肉などを使い、学校給食で年3～4回提供しています。



2年目の挑戦 ホップ収穫

8/30 安曇野産ホップ収穫

市内農家などで行う「安曇野産ホップを生産する会」はビールの原料となるホップの収穫作業を堀金烏川の畑で行いました。昨年から生育している約150本が順調に育ち、この日は約25[㍎]が収穫されました。26日には初めて地ビール祭が開催され、約300人が来場。来場者はホップの収穫体験や安曇野産ホップを使用したビールの飲み比べを楽しんでいました。ホップは定植から5年から10年で収穫のピークを迎えるため、今後、安曇野産ビールの普及が期待されます。